

校長室より

令和 4年8月26日
校長 植野 博之



夏休みも終わり、いよいよ新学期を迎えようとしています。この夏は皆さんにとって、どんな夏休みでしたか。楽しい思い出や何か挑戦したことはありましたか。

県内におけるコロナ感染も、最近では連日1000人～2000人を推移する等、感染拡大は落ち着きませんが、いよいよ新学期のスタートです。

基本的な感染対策をとりながら、何より心身共に健康に新学期を迎えたいと思います。

卒業生より後輩へ 「先輩の話を聞く会」

8月24日（水）「先輩の話を聞く会」を二学部（通学生）高等部対象に実施しました。本校の卒業生が、キャリア教育の一環として、先輩から後輩へ卒業後の様子や今の仕事の様子など、高等部の後輩へ、オンラインも活用しながら、語ってくれました。

進路選択におけるアドバイスやみはま支援学校で学んだこと、学生時代につけておいてほしい力、社会人としての心構えなど、とてもわかりやすく経験を含めて語ってくれました。1時間の講演でしたが、あっという間に時間は過ぎ、本当に内容の濃い、後輩の今後の参考となる話で、講演後も後輩から質問がいくつも出ました。

現在はマリーナシティで働きながら、炎天下の暑い中、時には熱中症にもなりかけながらも、お客さんの笑顔や楽しんでもらえることをいきがい、この夏も頑張っていたようです。

余暇の過ごし方や将来の夢など、前向きに歩んでいる先輩の姿は後輩の心に刻まれたことと思います。

とても苦労しながらも立派に成長した先輩の姿に大きな感銘を受けました。



教職員の夏季研修

病弱支援教育の専門性を高めるために、夏季研修をオンラインで行っています。8月19日（金）には、本校主催で実践交流会を実施しました。県内の重度重複障害児童生徒の教育を行う特別支援学校の先生方も多く参加され、よりよい実態把握の仕方や支援について熱心に協議しました。

8月22日（月）県病弱教育研究会では、県特別支援教育室 恋田剛彰氏より和歌山県の病弱支援の現状と課題について講演をいただきました。県内特別支援学級、学校の現状も含め、県内の病弱支援の状況等、情報交換できました。



実践交流会

県病弱支援研究会